

気候情報

2014年8月の日本の天候

- 東日本、西日本の日照時間はかなり少なかった
- 「平成26年8月豪雨」が発生
- 西日本の低温

8月の天気概況

太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱く、日本付近が湿った気流の影響を受けやすかったことに加え、台風第12号及び11号の影響により、東日本、西日本の月間日照時間はかなり少なく、特に西日本太平洋側では平年比54%となり、8月としては最も少なかった(統計開始:1946年)。また、月降水量は北日本から西日本にかけて多く、西日本太平洋側の降水量は平年比301%と、8月としては最も多い記録を更新した(統計開始:1946年)。これら台風及び前線による、7月30日からの大雨について、気象庁は「平成26年8月豪雨」と命名した。西日本では曇りや雨の日が多かったため、8月としては2009年以来5年ぶりに低温となったが、暖かい空気に覆われることが多かった沖縄・奄美では高温となった。

上旬:全国的に曇りや雨の日が多かった。旬のはじめ頃は、台風第12号が沖縄・奄美付近から黄海へ進み、四国地方を中心に西日本で大雨となった。また、4日から5日にかけて北海道で大雨となった後、北日本から西日本の広い範囲で大雨となった。四国地方の太平洋側では8月1日から5日までの総降水量が、多い所で1000mmを超えた。さらに、10日に高知県安芸市付近に上陸した台風第11号の影響により、四国地方や東海地方では、8月7日から11日までの総降水量が500~1000mmとなった。旬降水量は、北・東日本日本海側、西日本ではかなり多く、北・東日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。西日本の降水量は、8月上旬としては最も多く(統計開始:1961年)、西日本日本海側で平年比406%、西日本太平洋側で平年比692%となった。旬間日照時間は、西日本ではかなり少なく、北日本日本海側、東日本、沖縄・奄美では少なかった。西日本太平洋側は、8月上旬としては最も少なく(統計開始:1961年)、平年比27%となった。旬平均気温は、北日本と沖縄・奄美で高かったが、西日本では低かった。

中旬:全国的に曇りや雨の日が多かった。11日は台風第11号から変わった低気圧が北海道の西海上を北上したため、北日本を中心に大雨となった。また、16日から17日にかけては、大気の状態が不安定となり、近畿地方、北陸地方、東海地方を中心とした雷を伴った大雨で、土砂災害や浸水害などが発生した。特に、19日夜から20日明け方にかけては、広島県広島市で集中豪雨となり、大規模な土砂災害による人的被害が発生した。旬平均気温は、西日本で低かった。旬降水量は、西日本日本海側ではかなり多く、北・東日本で多かった。旬間日照時間は、西日本日本海側ではかなり少なく、北日本、東日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。

下旬:沖縄・奄美で晴れの日が多かったほかは、低気圧や前線、また湿った気流の影響を受け、曇りや雨の日が多かった。特に、24日は低気圧の影響で北海道で大雨となり、礼文島(北海道)では土砂災害により人的被害が発生した。下旬後半は、北日本から西日本にかけて寒気が流れ込んだため、旬平均気温は、東・西日本でかなり低く、北日本では低かった。一方、沖縄・奄美では高かった。旬降水量は、東日本日本海側、西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。旬間日照時間は、東・西日本ではかなり少なかったが、北日本、沖縄・奄美で多かった。

8月の気候統計

月平均気温:西日本で低かった。沖縄・奄美では高く、北・東日本では平年並だった。

月降水量:北日本、東日本日本海側、西日本でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。沖縄・奄美では少なかった。

月間日照時間:東・西日本ではかなり少なく、北日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。北日本太平洋側では平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

8月の記録(1位更新のみ)

- ・月降水量多い方から(mm)
和歌山 449.5 高知 1561.0 徳島 1065.5
など17地点
- ・月間日照時間少ない方から(h)
境 72.4 雲仙岳 46.7 阿蘇 47.2
など29地点

2014年8月の平年差(比)図

